

**B-1 指導上の工夫**

**算数科の取り組み**

算数科では、「記録・要約・説明・論述」に対応した学習活動として、課題に対する自分の考えを絵や図などを使って表現する活動に取り組んだ。また、単元末に「学習レポート」を書くことによって、学習内容の習熟と整理・要約して書く力の育成を図った。

さらに、習得したことを生活へ活用するための時間を設定して、活用力の育成を目指した。

**(1) 「記録・要約・説明・論述」を具体化したノート・ワークシート指導**

**① 実践例(2年「どんな計算になるのかな」)**

ア 問題文に線を引く

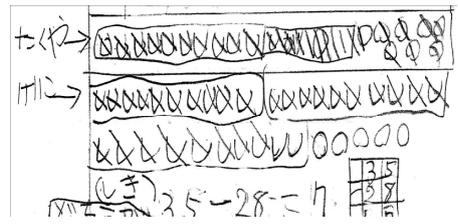
問題文の「わかっていること」や「きいていること」を赤線や青線で引き、全体で問題文を読んで確かめる。

イ 問題文から簡単な図をかく

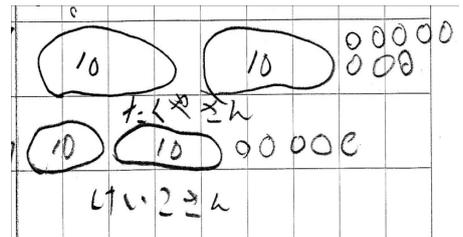
自分の考えをもつためには、問題文からつかんだ数量の関係を簡潔に書き表すことが必要である。そこで、絵ではなく、「簡単な図」の書き方(花の数や人の数などを○で並べる)を確かめた。

たとえば「なわとびをとんだ回数の差を求める問題」では、なわをイメージした簡単な図を一つずつかいたノート①と10のまとまりでかいたノート②を比較し、より簡単で分かりやすい方法があることに気づかせた。問題文から○図で、「わかっていること」と「きいていること」を書けるようになった。

ノート①

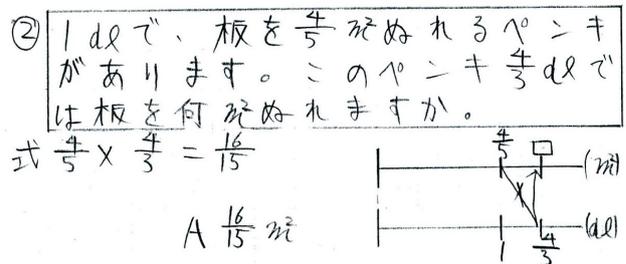
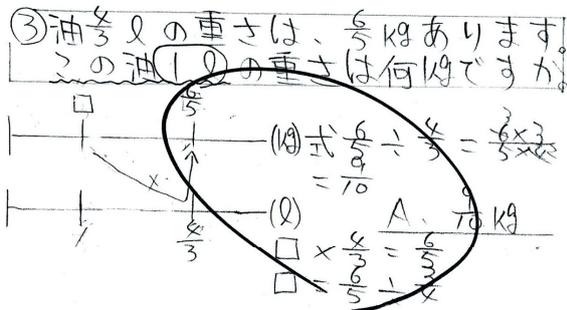


ノート②



**② 実践例(6年「分数のかけ算とわり算を考えよう」)**

問題の意味を把握したり、演算決定をしたりするときに、テープ図や数直線図は大きな役割をもっており、教科書にも頻繁に出てくる。しかし、いきなり「数直線図をかきなさい」と言ってもかけるものではない。そこで、まず図を読むことからはじめ、次に一部の数値を書き込む、そして、数直線図をかくという段階を踏んで指導していった。



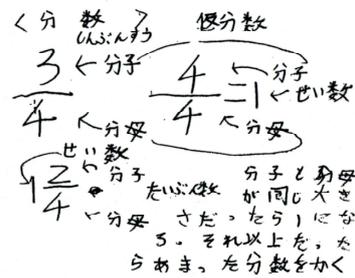
**③ 実践例(単元末「学習レポート」)**

単元末「学習レポート」は、ノート1ページに、学習を終えて大事だと思ったことと、学習感想を絵、図、式、表などを使ってまとめる。学習感想を書くときは、「思ったこと」「分かったこと」「これから気をつけたいこと」「友だちの考えで思ったこと」などの書く視点を与え、児童が何を書くのかを

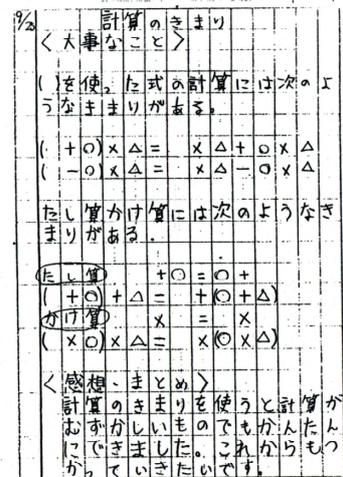
明確にした。また、初めに書き方の例を提示したり、友だちの書いた例を提示したりして、書き方が分からない子や、苦手な子に支援していった。



(3年 長さ)



(4年 分数)



(5年 計算のきまり)

## (2) 習得したことを学習や生活に活用する場の設定

### ① 生活への活用(実践例)

#### ア 3年「時刻と時間」

時計の見方(時刻)は2年生で初めて学習する。子どもたちは、いろいろな場面で時計を見て行動することが多くあり、時刻の定着はよい。しかし、3年生で学習する「時間」はなかなか活用する場面が少ない。また、「時刻と時間」の使い分けもあやふやなことが多い。

そこで、給食の時間を利用して時間を意識する場面を設定し、取り組んできた。12時50分には「ごちそうさま」をすることになっているので、その時刻を基準とし、時計を見て、自分がそれより何分前または何分後に食べ終わったのかを確認する。これを、毎日連絡帳に記録している。このことで、基準になる時刻とそこから何分という時間を意識することができるようになった。

#### イ 4年「折れ線グラフ」

「健康ノート」の体重の記録については、3年生までは、前回の測定時に比べての増減を色で記録している。しかし、4年生からはグラフで記録するようになっているので、折れ線グラフの学習をした後自分の体重を記入した。

最初の目盛りを何キロにするか、傾きはどうなっているかなど楽しく自分の体の成長を見つめる時間となった。記入を終えたと友達とグラフを見せ合いながら話し合う姿も見られた。